

単位数	教科担当者	使用教科書・補助教材・その他
2	高橋 幸一	精選古典 B 古文・漢文編 (筑摩書房)
必履修 学校必履修 必修選択 ○ 自由選択		完全マスター古典文法 (第一学習社) 常用国語便覧 (浜島書店) 漢文必携 (桐原書店) ほか

◆学習の目標

- ・ 古典としての古文と漢文を読む能力を養うとともに、ものの見方、感じ方、考え方を広くし、古典に親しむことによって人生を豊かにする態度を育てる。
- ・ 言語文化に対する関心を深め、国語を尊重して、その理解力、表現力の向上を図る態度を育てる。

◆主な学習内容・方法

- (1) 語句の意味・用法及び文の構造を理解すること。
- (2) 文章の構成や展開に即して主題や要旨を捉えること。
- (3) 基本的な助動詞・助詞の用法・意味、敬語法を理解し、古典の文章読解に役立てる。
- (4) 基本的な句法を理解し、漢文の訓読・解釈に役立てる。

◆到達目標と評価の観点

- 〔標準〕・古典を理解するに当たっての基本的な語彙を身に付けること。
- ・ 助詞・助動詞の意味用法、敬語法、句法などの基本的な文法事項を理解すること。
 - ・ 文章を文脈から判断して正しく理解すること。
- 〔応用〕・登場人物の心情を正しく読み取ること。
- ・ 文章の内容をまとめていく表現力を身に付ける。
 - ・ 文章の構成を捉え、文章の主題・大意を正確に把握すること。
- 〔評価の観点〕
- ・ 予習復習、授業中の取組み姿勢を重視する。

◆評価の方法

- ・ 年5回の定期考査のほかに、授業中の確認テスト、質疑応答、提出物、出席状況などから、総合的に判断する。

◆年間予定授業時間

予定時数	70 時間	1 学期 (26 時間)	2 学期 (28 時間)	3 学期 (16 時間)
------	-------	--------------	--------------	--------------

◆学習のしかた（予習・復習・宿題・課題・その他）

- ・教科書の本文については分からない箇所の語句を調べ、文法的な構造を考えておく。その際、辞書や文法の補助教材を活用し、自分自身の力で分かること・分からないことの区別を付けておく。
- ・漢文句法をマスターするため、漢文学習では「漢文必携」に常に立ち返って復習する。

◆授業計画

各クラスの生徒の実態に合わせ、教材の順序や時数を変更する場合がある。

学期	月	単元・教材等	時間	学習の内容	学習到達目標
1	4	「大鏡」 「和泉式部日記」ほか	6	・敬語法と 頻出重要語句の確認	次の項目が理解できること。 ・助動詞の働き ・敬語の基本。 ・和歌の捉え方。 ・物語全体の登場人物の動き。
	5	古典文法確認 入試問題演習	3	・基本的な古文読解の技法の 確認	・物語全体の登場人物の動き。
		・随筆	3	文語文法・敬語法・助動詞	・演習問題の場合 大まかな内容。 語句の文法的識別。 基本古語の意味。
		・物語	2	・助詞・主語の確認	
	6	・説話	3		
		漢文句法確認 入試問題演習	3	・漢文 句法確認 受け身・ 使役・否定・疑問等の問題 頻出句法について	
2	7	・小話	3	・漢文についての基礎事項 確認	次の項目が理解できること。 ・助詞、敬語法、挿入句、倒置法 などから主語の転換・不転換を 見付けること。 ・助詞の意味と働き。 ・評論、逸話の、筆者の主張の 「核」となる部分。 ・問題演習の場合 大まかな内容。 語句の文法的識別。 基本古語の意味。 ・共通テストの出題傾向と対策。
		・思想	3		
	8	入試問題演習	2	・古文の文章構成を考える。 －助詞、敬語法、挿入句、 倒置法などから主語の転・ 不転換を見付ける方法を学 習する。	
	9	古文－物語 評論 歌論	4 4		
	10	漢文－『史記』 ほか	4	・歌論・評論という共通テス ト、センター試験頻出のジ ャネルの文章に慣れる。	
	11	入試問題演習	2	・それぞれの漢文の文章の テーマを理解し、筆者の主 張を把握する。	
3		古文－物語・説 話	6		次の項目が理解できること。 ・小説読解後の、 文章の構成、登場人物の心情、 主題。 ・評論読解後の、論理の展開、 要旨。
	12	漢文－思想・詩	4		
		入試問題演習	2	・演習問題で知識の応用を 図る。	
	1	大学入試過去問 題演習	1 6	・大学入試過去問題の演習を 行い、実際の入試で有効な 問題解答力を高める。	
	2	直前演習			
	3				